



慶應義塾大学ビジネス・スクール

船井電機のVTR戦略

VTR市場の動向

10

据え置き型ビデオ・テープ・レコーダー（VTR）は80年代後半以降、価格競争に突入し、金額ベースでの各社売上高は伸び悩みの傾向を見せてきた。国内では、松下電器産業、日本ビクター、東芝、ソニー、シャープといったメーカーがシェアを分けあっているが、海外では船井電機、松下電器産業、Samsung、オリオン、Philips、ソニーのシェアが高く、やや国内競争とは顔ぶれが異なっている。この中でも船井電機はここ数年で大きくシェアを伸ばしており、2001年時点でグローバルシェアNo.1を達成している。

15

船井電機の特徴

船井電機株式会社は、1961年8月に設立された。2001年3月現在の同社の売上高は1567億円、経常利益は96億円である。売上高のうちOEMが過半数を占め、これが収益基盤となっている。長引く不況で、家電メーカーの業績不振が目立つ中、船井電機は1996年6月期から5期連続で増収増益を達成、ただ1社気を吐いている。船井電機の製品といえば一般的に、低価格のVTRや80年代のヒット商品である自動製パン器が有名であるが¹⁾、それ以外にもマルチメディア関連機器、映像音響機器および家庭用電化機器といった非常に広範囲に亘る製品の生産、輸出を行っている。

20

25

船井電機の特徴は、大手メーカーがもはや注目していない成熟化・低価格化の進んだ製品分野で、製品のリニューアルを目指して新機能・デザイン性といった高付加価値を開発するというよりも、いかにコストダウンをして良いものを安く作るかに注力していることであり、突出した国際価格競争力を持っている。

30

船井電機は世界最高水準と認められる生産性の高さと、それをベースにした圧倒的なコ

本ケースは東陶株式会社の重藤博司と慶應義塾大学大学院経営管理研究科の小林喜一郎が、公表資料をもとにクラス討議のために作成したものであり、経営状況の適否を例示しようとするものではない。

(2002年7月作成)